

皐月 愛南文芸

篠南川柳会

『肩』

寒い夜は肩寄せ合つて鍋囲む
天秤棒担がぬ肩や幾十年
はしゃぎ声響いて来るよ肩車
肩こりで塗ったり貼ったりかぶれたり
肩車上下の笑顔うりふたつ
肩の荷は一つ降ろせば一つ乗る
肩書きがあると大きく見えた頃
肩の荷をやつと降ろして隠居の身
過疎の地区肩寄せ合つて助け合い
子のローン親馬鹿ぶりの肩代り

前田由紀子
芝田 憲蔵
国松 幸枝
徳岡嗟津喜
射場ちずる
田中 保美
松本 安子
谷口千代子
松本もとお
田中すみ子

仰ぎ見る身も透きとおる花明り
春の色探す各駅停車旅
真珠筏眼下にのびる花岬
ひとり酒桜流しの雨が降る

宮下 熊夫
村尾加都子
小野山シマ子
中川 一喜

さわらび短歌会

陽炎や指の動きに誤字ふえて
春やよい気持ちさわやか花ざかり
送別の宴もたけなわ花吹雪
くもの巣に桜の花弁春の野や
皆そろい今日のメインは桜鯛
やわらかな日差しが照らす春の草

長田 高明
長田千恵美
森 早織梨
河内 海月
吉田 彩乃
大戸由里佳

春一番うれしい知らせ届きたり孫の就職そして進学
ダイレクトメールそれぞれ断り安堵しぬ郵便受けは空腹らしも
自爆なす人らの心情おもふとき「宗教は麻薬」の言葉が浮ぶ
ひと手間に取りたるいたんぼやわらかく酸味じわりと剥ぎたる時に
体調のややに戻りて「さわらび」の入力すると眼鏡を拭きぬ
膨らみし桜の蕾底冷えに今日も開かず自白飛び去る
鶯の初音に二人朝食の箸を休めて耳をすませり
「大丈夫？」君がかけたるひとことは毛布みたいに私を包む
ささくれて爪切りつめて寝る夜半肩の先より寒さ沁み入る
喪失の痛み耐へがたく計の報にやさしきひとを思ひ思ひぬ
窓という窓に布団の干されいて春の日差しに街はきらめく

岩村千代子
水野美代子
藤井 擴
前田 昭夫
松本マス子
澤近 正弘
扇野八代生
安村寿美子
前田 充
前田 知子
河上 明美

はじめまして。赤ちゃん。

3月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

3月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。